

訂正補刻

泰平江戶秘集

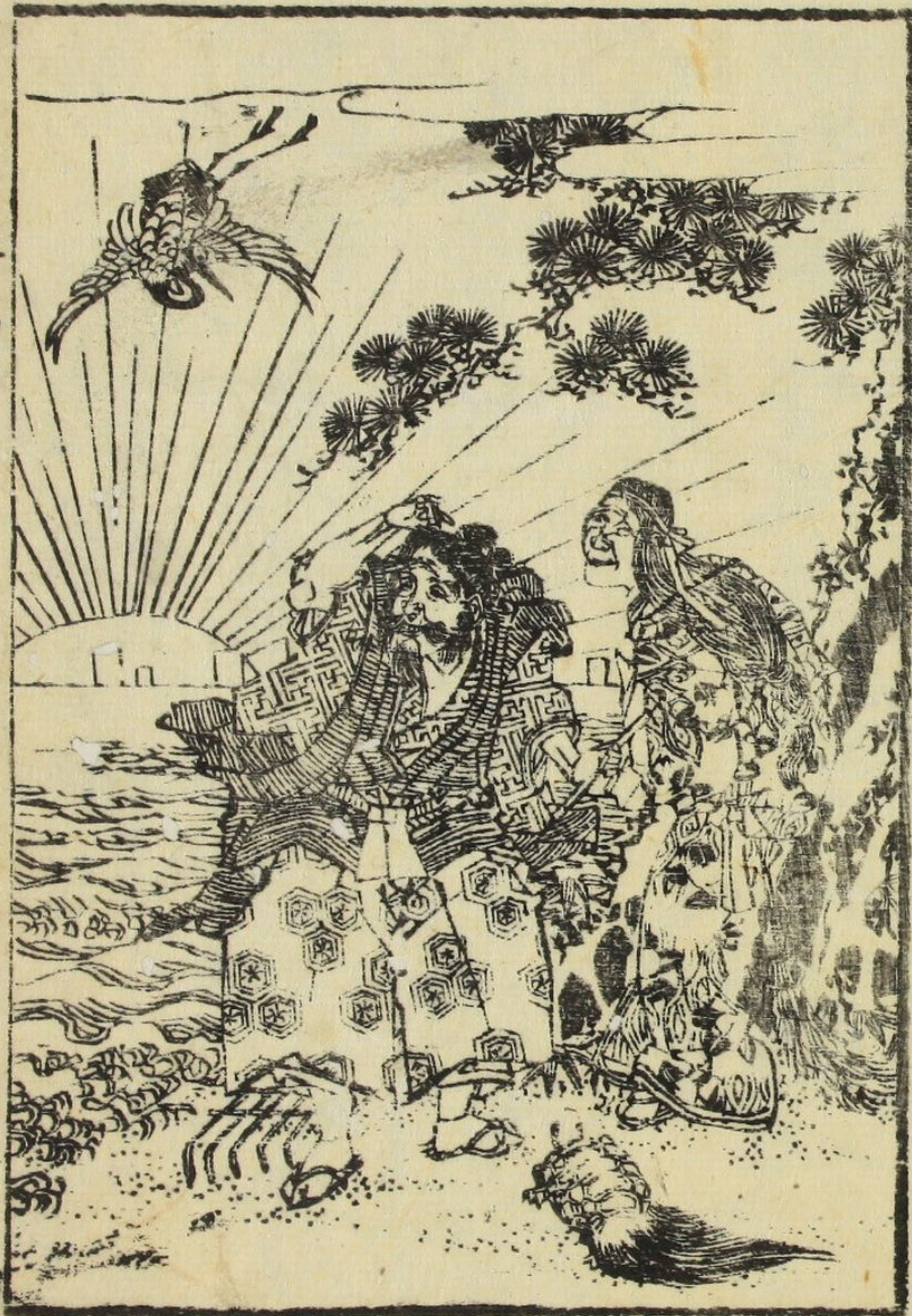
滿壽寶鑑

萬代富益

泉市板

泰平江戶秘集
地蔵堂





泰江
来韻

此書の性古より流布する
 と以て何人の述作といふ
 事なきをあらはす
 城の御仁政を作られたる
 風土の化務不難勝
 と稱し且方角のありし
 況をりし諸國の產物寄
 る小東との名目と奉
 裏中の童叟を以て早
 文字と教の一助とするの巨
 長なるべからば 甘泉堂記

甘泉堂

自遣往來

陽春之慶賀珍重之實事方
福者甚且目新の自後案
重也於今去雖事者尚於
更不乃休致生以迄之河

想式元旦百洲門沖方園
う城るに歴るに秋の夜を介
諸侯服也面を注る者願也
既緒以念信者健士流在哉
具天下内意者中將也

度身教養格を秋方感ふ事勿之
この度身は秋方感ふ事勿之
 却て惟不感候に因らば酒を
酒を感ふ事勿之
 不感候事候に惟れ葉有る候
葉有る候に惟れ
 敗不雖念候に思出相違先
思出相違先
 純先傳酒と一滴の中一毛も
一滴の中一毛も

葉多ふ事候に雖も此は相違
此は相違
 小波拂酒候に以て相違白輪
相違白輪
 上葉凡そ葉流河越に能く
能く
 之氣固く子流儀事候に有る
有る
 海草馬子輪出候に葉有る
葉有る

粉水解甲州揚梅林檎丹波桑
 那倉山椒鎮西善後仁博多酒
 白米參之氣也海者相良和布雅
 油藤十の鴻油者自光の屋身面
 吉右松を漢蕨川葦海草入野

射老觀新行島蛇油之麩牛紀
 修國善名酒與洋朝丹後新能
 登三徳者城字龜油丹徳幸松前
 昆布體肉餅山豆湯の津海荒大徳
 鰯字和鰯屋漢丈由點鮪釣鰯鮫

一ツのあやうらむちまのさけのひんたごのりのあやひたうまづけの
 志筑塩辛奥別鮫板子まろし高し物漬
くしげあやぐとるそとづけのくろをかこしうけの
 油境同漬菜味漬漬之鮫節麹漬
のひここすづけのあひのここのりあやぐとやます
 版蛸糟漬鯨子まろし同深し魚系糠
のひまのりあやぐとづけのつるがらりもるんが
 漬菜まろし漬之鮫節南米の煮着漬
かやぐまこひんた
 同稚子まろし雲雀梅首鮫がれ鮫
けをろら

ういぐすりやホのくこーあひるまひのま
 川島湖菜菜子蛇生乾豚残魚
ちりがのさよりこりませのさりうめまのせりここ
 田子酒魚友守切鯨鯨味腸刺串
あまのりらのひんたひらりがうやねあひんた
 刺鯨白身まろし魚目利石物鯨
すこしけのあまこすちこ
 子鯨其の酒子冠者白干鰯
あまのりらのひんたひらりがうやねあひんた
 古漬鯨子松鮫細漬は種鮫酢
あまのりらのひんたひらりがうやねあひんた

此の酒は...
 秘製...
 本家...
 山...
 松尾...
 漢名...

津...
 鴨...
 酒...
 宝...
 漢...

香檳院球者蒸和同池盛酒者
笔彩笔笔法德是國不胡之筆
深奧中斐作棘松青胡群之會
鶴兒鶴鶴雀鶴雀鶴刺刺刺刺
仙卷南郡甲府侯列七代漢唐

之續馬武直者漢甲甲方長
刀弓大洪炮公乘乘服不續續
刺刺刺刺刺刺刺刺刺刺刺刺
少清清子清清清清清清清清
御金御天鏡書城七種羅約約

終る矣 上君を遠く聞ひ以て平
海軍曹の勇を以て清治の味を
考て其の故を以て今更に余が作也
後城の事も新海防の要也
中野野原東城に長流 水音成業記

病除患去 濁川長民使 東海の事
膏乳此の濁川に下りて元
東大の海を往者 舟楫深き 意多
乃其の事也 舟楫難治 之風波
之矣 不任 雅意 或は 押流 漫と 漂

おのころね がん せん なる あり くれより あり ぬか しく せい せいの あり けい
言 根 眼 本 道 運 志 出 国 為 以 運 志 以
小 白 令 廢 法 運 志 志 當 子 良 南
乃 京 池 投 飯 酒 比 殿 被 号 東 殿
光 号 光 別 東 照 官 中 法 後 殿 也
慈 眼 大 師 住 以 倉 志 實 實 交 志 守 志 池

茶 劍 雷 城 鬼 門 山 應 蘇 摩 降 城
靈 湯 二 六 内 守 執 神 山 靈 湯 志
奉 抽 欲 持 地 内 守 町 方 丈 社
僧 坊 表 志 靈 諸 石 運 行 殿 志 茶 湖
乃 杉 本 志 湯 志 樂 志 志 志 志 志 志 志 志

天春消之渚人念解帛纒挂樓閣
 撤致難定今換直若松風者打波
 頻添風聲訪人之題道也
 今保領之花樹不消延感之上
 及爲林間清酒紅香堆物蘭

壽有芳之味殊香堂男壽壽
 梳髮後以粉掃備之齋小款一及法
 昆香與金齒教老教之香麝香
 此御使也誠以克德多之究賢

天保十一年庚子夏六月吉日
 書林 江戸芝神前二嶋所 和泉屋市兵衛版

授受之魚三斤解年

地錄其已

在之

厚以本

中

海通